

平成31年第1回

上小阿仁村議会定例会

# 会 議 録

平成31年3月 1日 (開会)

平成31年3月13日 (閉会)

13時45分 再開

○議長（小林信） 再開いたします。

○議長（小林信） 休憩以前に引き続き一般質問を行います。

質問の通告がありますので、次に7番 武石辰久君の発言を許します。7番、武石辰久君。

（7番 武石辰久議員 一般質問席登壇）

○7番（武石辰久） それでは、私の方から「村存続の担い手となる若者への定住移住施策をどう実行するか」、村長に質問いたします。

本村のまち・ひと・しごと創生総合戦略が、平成27年度策定されました。推進期間は、平成31年度までとなっております。今年度が最終年度であります。その中で、喫緊の課題となっている村の将来を担う若者の定住・移住施策をどう実行していくのか、4点を伺います。

1つ目は、「若者の声をどのように吸い上げ、反映させるか」であります。

平成29年3月議会の私の一般質問の「若者の交流の場づくり」について、村長は関係者と連携し、参加できる場を作りたいと回答しました。

企画実行するためには、当事者の若者の声を聴くことが大変大事なことであると思います。これから、どのように機会をつくり、どのように意見、要望を把握し、どう施策に反映させるのかを伺います。

2つ目は、「定住・移住相談と宣伝、情報発信の実行推進体制をどう作るか」であります。

昨年9月の私の一般質問で、村長は「村の相談体制の充実を推進する」と回答しておりますが、具体的に教えていただきたいと思えます。

3つ目は、「本県への移住が、今年度過去最も多くなっています。地方ふるさと回帰の状況をどう活かすか」、伺います。

4つ目は、1つ目から3つ目までの質問事項をふまえて、「定住・移住施策を、どのように具体的に実行していくのか」、伺います。

○議長（小林信） はい、村長。

（小林悦次村長 登壇）

○村長（小林悦次） 村存続の担い手となる若者への定住・移住施策をどう実行するかというふうなことで、4点についてお答えをさせていただきたいと思えます。

最初に、若者の声をどのように吸い上げて反映させるのかということにつきましては、若い人達の意見についてお聞きする機会をつくるということでもありますけれども、毎年、東京都の武蔵野大学のフィールドスタディーズを受け入れながら、学生に課題をつくりまして、村に人を呼び込む提案等の発表会やかみこあにプロジェクトのアーティストや来訪者との交流での提言等も大切にさ

せていただいております。

村の若者に関しましては、先に行なわせていただきました集落座談会においても、なかなか若い人の参加が少ないというふうな状況でありましたので、例えば、若い人が集まる機会や、子育て世代のPTAとか既存の会やサークル、団体の集まり等で、ご意見をいただけないか検討をさせていただきたいと考えております。

2番目の定住・移住相談、宣伝の実行推進体制については、移住・定住相談につきましては、総務課企画班が担当し、窓口相談等の対応をしております。

また、対外的には、ふるさと回帰センターによる東北地方限定のUターン、Iターン大相談会、それから移住・交流推進機構の主催するジョイン移住・交流&地域おこしフェアへ参加して、ブース来場者への直接相談を行っているところでもあります。

これにつきましては、総務課だけでなく住民福祉課、産業課、教育委員会のそれぞれの分野の担当職員が参加をし、各課連携で取り組んでいるところでもあります。また、東京都内で開催される秋田県地域おこし協力隊合同募集の機会にもPRをさせていただいているところでもあります。そのほか、移住支援サイト「秋田暮らし、はじめの一步」「雛形移住のニュースタンダード」で上小阿仁村を紹介をさせていただいております。

村で作成をいたしました移住紹介ビデオにつきましては、ユーチューブに登録してPRに努めております。引き続き無償ツールを活用した情報発信にも努めてまいりたいと考えているところでもあります。

3つ目の本県移住が、今年度過去最多となっている地方回帰の状況をどう活かすかというふうなことににつきましては、秋田県に移住者が増えていることは大変喜ばしいことでもあります。この気運によっては村にも移住者が増えればと考えております。

しかしながら、これは、移住希望者と移住先のマッチングが叶わなければ実現しないということでもあります。上小阿仁村は、教育、福祉、各種補助制度が充実していると思っておりますので、引き続き村が実現可能な移住者のニーズを調査しながら相談に対応してまいりたいというふうに考えております。

4番目の定住施策を、どのように具体的に実行していくのかということにつきましては、移住に必要な仕事、住宅、子育て、福祉、教育などの施策を多種多様な形で、引き続き総務課を窓口として、各課連携で対応していきたいと考えております。

PR実行体制のところでお話しましたが、相談会等のほか移住体験ができる事業を進めてまいります。

上小阿仁村集住型宿泊交流拠点施設は、短期滞在居室やレンタルルームなど、

多様な世代の人々が集い活動できる施設となっておりますので、この施設を核とした交流を進めながら、将来の移住候補地として選択される地域になるように努めてまいりたいというふうに考えております。

よろしくお願いを申し上げます。

○議長（小林信） 武石辰久君。

○7 番（武石辰久） 県内の各自治体では相談体制について、サポート強化が必要だとして、担当課の人員を増やしたり、新設など体制づくりの強化を積極的に行っております。

また、秋田県は新年度、現行の「活力ある集落づくり支援室」と「地域元気創造課」を統合し、新しく「地域づくり推進課」を設置します。

起業と結びつけた移住面では秋田企業活性化センター内にプロの人材獲得を支援する「秋田の戦略拠点」があり、活用、連携が必要であると思います。相談員、サポーター、コーディネーター、担当職員等の本村の体制づくりは、どのように強化するのか、再度伺います。

○議長（小林信） 村長。

（小林悦次村長 登壇）

○村長（小林悦次） 色んな形で相談体制を強化していかなければならないと、これは各町村、そして県でも対応しているところでもありますので、今後、村としても、その方向で移住・定住を促進するにあたって考えていかなければならないということでもあります。

そういう意味では、協力隊の対応とか、方法として色んなことを他町村でやっているわけでもありますので、先進地の対応等、それから施策等について参考にさせていただきながら、村でできる内容を、検討をさせていただきたいというふうに考えておりますので、よろしくご理解をいただきたいと思います。

○議長（小林信） 武石辰久君。

○7 番（武石辰久） まず、具体的な強化策というのが、今、村長からも示されておられません。検討するという、そういうお話ですけれども、冒頭に私が言いましたとおり、総合戦略の計画では31年度が最終年度ということでもありますので、先ず村の支援制度をさらに強化し、また、村の良さを発信し、国、県の制度も活用しながら、将来、移住の潜在村として、関東地区かみこあに会と、ふるさと会への働きかけや、村外の応援者、上小阿仁村のファンづくりの特別村民登録、学生の合宿、研修誘致など、関係人口、交流人口を増やし、空き家も活用した、お試し住宅体験ツアーなど、村のオリジナルの施策で、移住・定住に結びつけていかなければならないと思いますが、このような点も含めて、村長の実践する考えはありますか。

○議長（小林信） 村長。

(小林悦次村長 登壇)

○村長(小林悦次) 今、言われた内容について、色んなところで実施をしながら対応をしているわけでありますので、村に対応できる部分については、大いに活用させていただいて採用をするということ、これから対応していかなければいけないというふうに思っております。

いずれにしても、4月に色んなことがありますので、今、ここで言うのはまた少し問題が生ずるのではないかと思っておりますので、いずれ、色んな形で検討しながら、村の移住・定住が促進されるような対応をとらせていただきたいというふうに、現時点では考えておりますので、よろしくご理解をいただきたいというふうに思います。

○議長(小林信) 武石辰久君。

○7番(武石辰久) なかなか具体的なものが見えてこないわけですがけれども、冒頭の1点目の質問の、若い人方の交流の機会をもっともっと作っていただき、上小阿仁村を背負う若者として村を思ってもらう機会を是非、意識的につくって、それを反映できるような形もつくっていただきたいと思います。

移住・定住は、上小阿仁村の魅力を感じてもらい、これから先、一緒に村づくりを行っていける人材を誘致し、さらに確保して一緒に歩むことだと思います。

自分の反省も踏まえて言いますが、それには、自分の思いだけでなく、人の話を聞き入れ、心を通わせる場をつくり、その思いとニーズに応えていくことが、村長や私達の役割ではないでしょうか。

村長が、今までも、今日の施政方針でも述べたように「住民サイドの立場と目線に立つ」ことと、「一生懸命努力している人が報われる村政にしたい」ということは、前段のそれを実行することだと私は思います。

それによって、意欲と村に対しての希望が生まれてくるのではないのでしょうか。

最後に、これに対し、村長の思いを伺います。

○議長(小林信) はい、村長。

(小林悦次村長 登壇)

○村長(小林悦次) 今、言われたこと、そのとおりだと思っております。施政方針の中でもお話をさせていただいたとおり、やりたいこと、これからやるべきことを一生懸命考えております。そして、それを実行に移さなければどうにもならないことだというふうに思っております。

そして、予算措置をして、執行しなければ効果も出ない。ただ、計画だけがあっても、それは計画倒れになるというふうに思っておりますので、計画をキチンとした形でつくる。そのためには、やはり若い人方、いろんな方々、住民

の方々のご意見を、提言を尊重して、住民の立場、住民の目線で計画を作らせていただいて、そして、予算も作らせていただくというふうなことに繋がってくると思っております。

いずれ、今後、施政方針でお話させていただいたとおり、色んな形で皆様のご協力のもと、村を5年先、10年先を見越した形で対応させていただければというふうに考えておりますので、今日のご意見、ご提言を大事にしながら進めさせていただきたいというふうに考えております。

よろしくお願いを申し上げます。

○議長（小林信） 武石辰久君。

○7番（武石辰久） 最後に、村長に思い切った具体的な施策を、是非、早く実行していただくことをお願いして、私の質問を終わります。

○議長（小林信） 以上で、武石辰久君の質問を終わります。